

# 平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】 【教科 国語】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力であり、人間形成の基礎・基本となるものである。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT 機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高め、また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する授業を目指す。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none"><li>• おおむね授業に意欲を持って取り組み、学習に積極的な態度である。</li><li>• 論理的な思考、表現力のつたなさ、批評的な視点を持ってない点に課題が見られる。</li><li>• 文法理解に課題が見られる。</li></ul>

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- 宿題や提出物への取り組む姿勢に個人差がある。
- 物語や詩など叙情的な読み取りと比較し、説明的文章の読解が苦手である。また、「話す」「聞く」分野での批判、批評的内容に苦手意識が強い。
- 文法理解がおしなべて苦手であり、取り組みが消極的である。

## 4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
• 生徒同士学び合う機会を増やす	• 宿題チェックを生徒同士で行う。またグループワーク後のフィードバックの時間を確保し、生徒同士で学び合う機会を持つ。文法理解についても同様にグループワークを取り入れる。
• 新聞記事の活用	• 聞き取り要約に新聞記事を活用し、視野を広げ、自分の意見を持つ基礎とする。また、自分の意見を文章や言葉で表現する練習とする。
• 批評活動	• 批評的な視点を養うため、批評をテーマとする活動を行う。

# 平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 1 年生】 【教科 社会】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力であり、人間形成の基礎・基本となるものである。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT 機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高め、また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する授業を目指す。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none"><li>授業規律は確立されている。</li><li>意欲的に授業に臨む生徒が多い。発言も全般に積極的だが片寄りも感じられる。</li><li>読み取った内容や聞き取った内容の要旨をまとめる力は身に付いている生徒が多い。</li><li>基礎・基本の知識の定着は個々の差が大きい。</li><li>基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決する力が全般に不足している。</li></ul>

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- 既習の基礎的、基本的語句や内容の理解、定着を図るため、様々な場面で復習の機会を増やす必要がある。
- 思考力・判断力・表現力等の育成を通し、課題を解決する力を高める必要である。
- 家庭学習の習慣を定着させ、内容、質をより充実させる必要がある。

## 4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎基本の定着	<ul style="list-style-type: none"><li>前時の学習内容の要点、重要語句等を授業内において確認する時間を設ける。</li><li>生徒の反応により既習事項を授業で丁寧に振り返り、反復しながら進める。</li><li>定期テストにおいて、基本的な内容の定着を確認する。</li><li>随時、復習ワーク等を用い基本的な内容について定着を図る。</li></ul>
課題解決に必要な力の育成	<ul style="list-style-type: none"><li>単元の目標を明確に設定する。</li><li>読み取る力、自分の考えを書く力、述べる力を高める機会を充実させる。</li><li>特に思考する場面においては十分に考える時間も保証し、習慣化させる。</li><li>単元の評価規準と評価法を明確に設定する。</li><li>お互いに意見交換をすることにより、多面的な考え方ができるよう指導する。</li></ul>
家庭学習の習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"><li>短時間でも取り組める学習課題を設定する。</li><li>取り組み状況をノート回収等により確認し、評価する。</li><li>課題に基づいた発問等の投げかけを設け、取り組む意欲を高める。</li></ul>

# 平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】 【教科 数学】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力であり、人間形成の基礎・基本となるものである。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT 機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高め、また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する授業を目指す。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	授業は集中して聞くことができる。しかし、家庭学習の時間が不足気味で、授業内では理解しているが、復習をすると既習事項を理解していないことがある。授業を先に進めることと並行して定期的に復習をしていく必要がある。
「東京ベーシックドリル」の分析	領域別にみると、「A.数と計算」「B.量と測定」は立川市全体の平均正答率ぐらいであるが、「C.図形」「D.数量関係」は正答率が4割程度と平均よりも低い。このことより、計算、測定などの基礎的な計算力は身に付けている。図形や数量などの分野は、きちんと数学的な考え方を身に付けていく必要がある。

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

既習事項を理解せず、なおかつ家庭学習もしていないという生徒も多くいる。概ね基礎計算力は付いている生徒が多いので、復習と既習事項を補助教材を用いて復習していく必要がある。基本的な計算力は習得しているので、そこから応用問題へ発展させていけるように数学的な考え方を身に付けさせる必要がある。

## 4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎・基本の定着 教材の工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>授業で理解したものをきちんと復習させ知識の定着を図る。</li><li>反復練習による家庭学習の徹底。分かる授業を行うため、補助教材やICTを利用した教材の作成・研究を進める。</li><li>特に生徒の苦手分野（基準量・比較量・割合など）においては、関係する内容を学習するたびに復習する。</li></ul>

# 平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】 【教科 理科】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して、主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力である。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT 機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高める。また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業には集中して取りくんでおり、積極的に発言をする生徒が多くいる。</li><li>・ 既習事項(小学校の内容)については、十分に記憶しておらず、多くの生徒が聞いたことがあるという程度である。</li><li>・ 既習事項を元に思考すること、実験結果から考察につなげること、また、考えを表現することが苦手な生徒が多い。</li><li>・ 実験器具の取扱いについては、おおむね満足できるが、実験の操作については説明を十分理解していない生徒も見受けられる。</li></ul>

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題(上記分析を踏まえて)

予習・復習等の学習習慣が定着しておらず、そのために、知識の定着が十分にできていない。また、事象から理由を考察する力、また、思考したことを表現する力が十分でない。

## 4 授業改善策(上記課題を踏まえて)

改善項目	具体的な改善策
学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 各章ごとに小テストを行い知識の定着を図る。</li><li>・ 単元の初めに予習を目的としたクイズを行うことで知識の定着を図る。</li></ul>
思考力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 実験後に考察する時間を十分にとる。</li><li>・ 考えを班活動で、班員に発表する時間をとる。</li><li>・ 実験や観察後に考えを文章にするようなプリントを作成する。</li></ul>

# 平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】 【教科 英語】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力であり、人間形成の基礎・基本となるものである。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高め、また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する授業を目指す。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 小学校で外国語活動を行ってきたので、挨拶や簡単な自己紹介、やりとりは自然にできる。</li><li>・ 英語の音にはかなり慣れており、英語の指示もよく理解し、英語による授業に対して抵抗がない。</li><li>・ 積極的に授業に取り組もうとする生徒が多く、授業ではよく聞き、真似をし、発声している。</li><li>・ ペアワークやグループワークなどの言語活動に、意欲的に取り組み、授業の中での生徒同士のコミュニケーションを楽しんでいる。</li><li>・ 小学校からの積み重ねがあり、発表活動を臆することなく堂々とする生徒が多い。</li></ul>

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- ・ 小学校の外国語活動で、聞くこと話すことは行っているため、コミュニケーション活動には、ほとんどの生徒が意欲的に取り組むが、書くことへの能力は個人差が大きく、家庭学習の習慣が定着しない生徒は音と文字がまだ一致していない。
- ・ 読む力、書く力を十分に身に付けさせることが今後の課題である。

## 4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
言語能力の育成	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「聞く」「読む」「書く」「話す」の4技能をバランスよく育成するために、1時間の中にバランス良く入れる。</li><li>・ 英語による英語の授業を行う。</li><li>・ 教師の small talk、生徒同士の chat を多く取り入れる。</li><li>・ Writing に関しては授業中に書く時間をとり、書く宿題を出し、家庭学習を定着させる。また、週一回行う朝テストには、書く練習をすればできる問題(基本文を書く問題)を出題している。そのための練習は自主学習ノート(ライティングノート)に練習させ、意欲点に加えることで、生徒の書くことへのモチベーションを高める。</li><li>・ 発表活動を多く取り入れ、まとまった文章を書く力と発表する力を付ける。</li></ul>
個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 少人数授業のメリットを生かし、机間指導や声かけを多く実施して個別指導の充実を図る。</li><li>・ ワークシート、ノート、ワークを頻繁に点検し、個々の力を知り指導する。</li><li>・ ALTを活用し、話すこと、書くことに対しても個々に対応する。</li></ul>

# 平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】 【教科 音楽】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力であり、人間形成の基礎・基本となるものである。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT 機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高め、また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する授業を目指す。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	多くの生徒が授業における規律やルールを守り、意欲的に取り組んでいる。実技面において、理解力に個人差があるため、「ラララリレー」等リレー形式で一人一人が自信をもって歌える機会を設け、個に応じた指導を取り入れている。また音楽を楽しみに授業に来ている生徒も多く、スモールステップでペアワークやグループワークといった活動を行い、一人一人の自信につながっている。

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

各領域・分野に応じて、様々な指導を行っているが個人差がある。例えば歌唱においては、音程を合わせていくことや表現の幅を広げることなどである。また鑑賞では、曲想のイメージを感じ取って聴くことができるが、それを音楽全般に繋げていくことに課題がある。

## 4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎・基本、技能の向上	<ul style="list-style-type: none"><li>教師の口の開け方の真似をさせる。</li><li>発声練習を充実させ、綺麗な声で歌えるよう基礎的な技能を身に付けさせ、グループワークを取り入れる。</li></ul>
個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none"><li>合唱を通して、核となるリーダーを育て、お互いに学び、高めあう姿勢を作る。</li><li>音程の確認のため、ワンフレーズテストを用い、苦手な生徒に対して、一人一人細やかな指導を行う。</li></ul>

# 平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】 【教科 美術】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力であり、人間形成の基礎・基本となるものである。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT 機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高め、また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する授業を目指す。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none"><li>与えられた課題に対して素直な気持ちで取り組み、意欲的である。</li><li>基礎的な表現力や理解力に個人差があり、聞く力や考える力を必要とする生徒がいる。</li><li>作業の進み具合の個人差が大きく、授業外での制作を必要とする生徒がいる。</li></ul>

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- 学習意欲があっても美術作品としての表現力に結びつかない傾向がある。それぞれの課題について、生徒の表現活動における課題を細かく観察して、適切な指導を行うことが課題である。
- 言葉による理解力の個人差があるため、なるべく多くの生徒が分かりやすい言葉を効果的に使用することや、伝えたい内容を分かりやすく視覚的に指導することが課題である。

## 4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none"><li>前時の振り返りを行い、学習内容のねらいや表現活動の目標を毎時間明確にさせ、自己の課題を生徒一人一人に把握させる。</li></ul>
基礎的な技能の 向上	<ul style="list-style-type: none"><li>豊かで効果的な表現方法が理解できるように、個に応じた制作のポイントをタブレットやビデオ映像を活用して視覚的に把握させる。</li></ul>
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>生徒の優れた表現をタイムリーに紹介して、表現力を高める技法を理解させる。</li></ul>

# 平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】 【教科 保健体育（女子）】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力であり、人間形成の基礎・基本となるものである。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT 機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高め、また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する授業を目指す。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	各領域、単元、種目ごとに、運動体験が不足している生徒が見られる。

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

各領域、単元、種目ごとに、楽しさや喜びを味わうことができている。また積極的に取り組もうとしている。しかし運動体験が不足している生徒が見られるため、それぞれの特性に応じた、きめ細かな指導が課題となる。定期考査においては二極化がみられ、学習の定着や取り組み方に課題がある。

## 4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎基本、技能の向上	<ul style="list-style-type: none"><li>運動の特性理解と反復練習等による基礎・基本、技能の向上の定着。</li><li>学習カードを活用し、運動のポイントを明記する。また自分の言葉で考えを表記することや発信し表現ができる場を設ける。</li></ul>
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>技能差に応じた場の設定をする。</li><li>ICTを活用し視覚的に自己の動きを確認し、課題解決や分析ができるようにする。</li><li>運動の楽しみ方や練習法、体力の高め方などイラストや写真・動画・学習カードを用いて示す。</li></ul>



# 平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】 【教科 保健体育（男子）】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力であり、人間形成の基礎・基本となるものである。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT 機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高め、また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する授業を目指す。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	各領域、単元、種目ごとに、運動体験が不足している生徒が見られる。

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- ・ 始業のチャイムの前に集合、整列が完了しており、授業に意欲的に取り組んでいる。また、相互に教え合ったり学び合ったりしようとしている生徒が多い。よって、今後は言語活動の充実を図り、学力のさらなる向上につながるよう、意図的、計画的に指導を行っていく。
- ・ 体力テストの結果で、全国の平均値を下回った種目(握力、長座体前屈、反復横とび、持久走、立ち幅跳び)の記録の向上が課題である。

## 4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
言語活動の充実	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 言語活動を充実させるために、ICT 機器を積極的に活用し、課題解決に向けて、協働的な学びの中で課題に応じたアドバイスや取り組みの工夫について伝達する場面を意図的・計画的に設定する。</li><li>・ 学習カードに、自らの考えを、整理して書くことを継続していく。</li></ul>
体力の向上	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 新体力テストにおいて数値が全国の平均値を下回っている種目があるため、毎回の授業の中で補強運動(動きを持続する能力、巧みな動きを高める運動を中心に行う)を行い、体づくり運動の体力を高める運動と他の単元とを関連させて指導することで、体力や運動能力の向上を図る。</li></ul>

# 平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】 【教科 家庭】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力であり、人間形成の基礎・基本となるものである。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT 機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高め、また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する授業を目指す。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none"><li>ほとんどの生徒が授業における規律やルールを守り、素直に意欲的に取り組んでいる。</li><li>課題に対しては、説明をしっかりと聞き、よく考えるという過程をきちんと踏まずに間違った答えを出してしまうことがある。また、集中力や意欲や技能に課題がある生徒もいる。</li></ul>

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

新たな気持ちで中学校の学習に取り組んでいるが、特に、工夫して考えるということに苦手意識のある生徒もいる。計画を立て、まとめをすることの苦手な生徒もいるが、文章へのまとめ方を指導し、習慣付けていく。

## 4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎・基本、技能の向上	<ul style="list-style-type: none"><li>実習計画や実習の記録を丁寧にまとめられるようにする。上手にまとめられているものを参考になるよう、できるだけ紹介していく。</li></ul>
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>基礎的、基本的な技術を習得させ、家庭でも応用できる調理実習を行う。</li><li>ICT機器を用いた授業を行い、学習内容の確認と定着を心がける。</li></ul>

# 平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】 【教科 技術】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力であり、人間形成の基礎・基本となるものである。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT 機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高め、また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する授業を目指す。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none"><li>男女の仲が良く、挨拶などの礼儀も良い。</li><li>全体的に規範意識も高く、真面目な授業態度である。</li><li>授業に意欲的に取り組み、積極的な発言も多く楽しそうな様子が見られる。</li></ul>

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

どのクラスも積極的な発言が多く学習に対する意欲も感じられる。しかし、定期考査の結果からも学習内容を十分に理解していない生徒もいることから、知識の確かな定着が課題である。

## 4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
助け合う学習	<ul style="list-style-type: none"><li>4人班を活用し授業内で必ず一人一役ができるように授業内容の工夫を図り、生徒が考え表現する場面を設定する。</li></ul>
ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"><li>タブレットとプロジェクターを連動させ、プレゼンテーションソフトを有効に活用し、学習内容の定着と理解を深める。同時に作業動画を視聴させることで、作業内容と手順の理解を図る。</li></ul>
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>今年度は一枚板を利用した「ティッシュ Box」の製作でのこぎり引きと穴あけ加工の基本を学ぶ。また、ワープロソフトの基本とネットモラルについても学習し情報についての関心を高める。</li></ul>